

各拠点病院が重点的に取り組んでいるがん対策(2025年度)

1. がんの予防

①生活習慣(喫煙) ②生活習慣(飲酒) ③感染症対策(HPV) ④感染症対策(肝炎) ⑤感染症対策(HTLV-1)

2025年度：大腸がん激減プロジェクトで何らかの方針が示された場合はそれに従う

2. がん検診

①科学的根拠に基づくがん検診の実施について ②がん検診の精度管理等について ③受診率対策について

2025年度：大腸がん激減プロジェクトで何らかの方針が示された場合はそれに従う

3. がん医療提供体制

①医療提供全般 ②病理診断 ③がんゲノム医療 ④手術療法 ⑤放射線療法 ⑥薬物療法 ⑦チーム医療の推進 ⑧医療実装

2025年度

①造血器腫瘍の遺伝子パネル検査の準備を行う。

②放射線治療機器の更新が終了し、小線源治療も含め放射線治療を再開する。

⇒放射線治療を再開した

③がん遺伝子パネル検査について他施設との連携を強め出件数の増加を目指す

4. 緩和・支持療法

①緩和ケア ②在宅療法 ③リハビリテーション ④支持療法 ⑤妊孕性温存療法

2025年

①irAE対策チームを立ち上げる

②グループ指定の八重山病院と宮古病院と共催で1回ずつ年2回の緩和ケア研修会を開催する。

⇒八重山病院と共催の緩和研究会を9月に開催した。

③がんリハビリテーション研修に理学療法士を派遣する。

5. 個別のがん対策

①希少がん ②難治性がん ③小児がん ④AYA世代のがん ⑤高齢者のがん ⑥離島・へき地

2025年度

①希少がんや難治性がんの紹介患者を増やす

②石垣・宮古地区のグループ指定のがん診療病院との連携を図り、北部地区の県立北部病院を加えた3病院への専門医の派遣を継続する。離島地域でも腫瘍内科の外来を活用しがん遺伝子パネル検査を依頼できる体制を継続する。

6. 共生

①相談支援 ②情報提供 ③デジタル化 ④就労支援(医療機関側) ⑤就労支援(職場側) ⑥アピアランスケア ⑦自殺対策 ⑧がん患者の疎外感の解消やがんに対する偏見の払拭

2025年度

①がんと診断された患者が必ず1度はがん相談支援センターを訪問する体制を整える。

②アピアランス支援事業の利用者を増やす。

7. 基盤

①研究の推進 ②人材育成の強化 ③がん教育及びがんに関する知識の普及啓発 ④がん登録の利活用の推進 ⑤患者・市民参画の推進

2025年度

①琉球大学と連携し臨床腫瘍学会専門医を育成する体制を整える。